

# 教育と文化

No.118

平成30年11月1日

公益財団法人  
愛知教育文化振興会  
岡崎市明大寺町字馬場東170番地1  
電話 0564-51-4819

## 「思い」を「意志」へ、

## そして「形」へ

公益財団法人愛知教育文化振興会 副理事長 水藤 彰啓



毎年、卒業式が近づくとも職員や生徒から「校長先生の授業を！」と依頼されます。自分の免許教科が数学であるので教科の授業をしたいのですが、義務教育を終えて中学校を巣立つ生徒にぜひ伝えたい思いもあり、ついつい「道徳」の授業を行います。昨年は「あの坂をのぼれば」（杉みき子・作）という短編小説を教材として使いました。

やりたくてやれないことの重荷が積み積もった少年は、どうしても海が見たいという思いで朝から海をめざして歩く。「山を一つ越えれば海が見える」と幼い頃に祖母に言われたことを信じて。しかし、いくつ山を越えても海は見えず、果てしない坂道が続くのを見て、もうやめよう、こんなに辛い思いをして何の得があるのかと思う。そのとき、少年は海鳥の声を聞き、ひらひらと落ちてきた海鳥の羽毛を見つける。ただ一片の羽だけけれど、それはたちまち少年の心に白い大きな翼となって羽ばたいた。少年は「あの坂をのぼれば海が見える」と、もう一度自分自身に向け、力をこめてつぶやく。そして、また海をめざして歩き始める。坂を越えてそこに海がなかったとしてもよかった。たとえ、このあと三つの坂、四つの坂を越えることになろうとも、必

ず海に行き着くことができる、行き着いてみせる。少年の耳に心の奥には、潮騒の響きが聞こえ始めていた。

（紙面の都合上、要約をしました）

十分に時間をかけて黙読させた後、私自身が範読します。そして自分の気になる部分に印をつけさせます。感想も含め、さまざまな意見交流の後、私から話をします。

「多くの困難が立ちはだかって、希望をもって一つ一つ乗り越えていけば、いつか必ず夢はかなう。それ以上に感じてほしいのが少年の心の変化です。『海が見たい』という『思い』や『願望』しかもたなかった少年が、『海に行き着いてみせる』という強い意志をもった……それは大きな変化であり成長です。『思い』を『意志』にかえたとき、はじめて『夢の実現』に向けて歩き出したことになります。そして、いくつかの坂を乗り越えた先に、たとえ海がなかったとしても、そこには海に代わる別の何かがあるはずですよ。もしかしたら、それは、海よりももっとすばらしいと思えるものかもしれません。まずは、自分の人生を自分の意志で歩く。当たり前のことですが、悔いのない人生を送るために忘れてはならないことであると思います。」こうして一時間本気で子どもたちに語りかけます。

目の前の子どもたちに教師がいかに本気で語るか、子どもたちをいかに本気に

させるか。これこそ「子ども先にありき」「子どもを中心に据えて」教育活動に取り組む三河の教育風土そのものです。これは、愛知教育文化振興会の刊行物に込められた理念も同じです。三河の子どもたちのために、三河の先生方（三教研の編集委員）が強い「意志」をもって作ったものばかりです。三河の子どもたちのよりよい人格形成という私たちの「夢の実現」に向かって、先人の「思い」をふり返ってみたいものです。

### もくじ

#### 巻頭言

「思い」を「意志」へ、そして「形」へ

水藤 彰啓

三河教育への提言

希望という灯り 竹下 裕隆

三河の文化を訪ねて

信玄台地の巨人「牧野文齋」

森 誠

刊行物とわたし

楽しい読書・冬休み日誌

教室の窓辺 三輪 教子・小野 智史

学校教育ポランティアグループ活動紹介

安城・二本木小 田原・赤羽根小

刊行物を活用した授業 福田 公仁

「みんなの安全」を活用して

平成三十年度個人研究助成

研究成果報告書提出者の紹介

平成三十年度団体研究助成

特色ある教育活動 西尾・ハツ面小

行事予定・編集後記

# 三河教育への提言

## 希望という灯り

### 〈これから先生への期待〉

愛知県立岡崎高等学校長 竹下 裕 隆



はじめに

県教委にいた折り、初任者研修の開講式後に講話をする機会がありました。その話の内容を振り返りながら、私が教師として考えてきたことや先生方への期待をお話しして、皆様への「提言」とさせていただきますと思います。

すべてのことには意味がある

「子どもたちは、ランドセルの中いろいろな思いを入れて、それを背負って毎日通っている」

この話は、ある小学校の校長先生が雑誌の中で語っておられた言葉だったと思いますが、これを読んでとても感銘を受

けました。リュックを背負った中学生、高校生と同じです。子どもたちの笑顔の向こう側の姿を、寂しいのか悲しいのか苦しんでいるのかどうか想像することの大切さを教えてくれます。

小さなサインの意味を、毎日自らに問いかねながら朝の観察をしたいものです。ちよつとでも引つかかることがあれば、それを職員室で必ず声に出してみる。そうすると、他の先生方から「そう言えよ」といったことが出てくることもありまふし、その後、意識して多くの先生の眼でその子を観察することに繋がるのだと思います。チームで動くためにも、まず声に出すことが大切です。すべてのことには意味があるのだと思います。

学習指導についても、その学習内容が子どもたちにとってどういう意味があるのか、事前に考えながら授業に臨むことが大切です。また、教師が何を教えるかというスタンスから子どもたちが何を学ぶのかというスタンスに立つことで、学習の主体を意識した授業にしてい

ができます。高等学校でありがちなのですが、一時間の授業で学すべき内容の焦点がぼやけてしまうことがあります。私は世界史を教えていましたが、毎時間、「なぜ・・・だったのか」という本時のテーマを示して疑問型で授業を行っていました。授業が終わってその「なぜ」が生徒の中で腑に落ちれば成功ということだと思のですが、正直、考查をして自らの力不足を感じざるを得ず、次の授業改善の材料には事欠きませんでした。それでも、そうやって教師が学び続ける姿勢を子どもたちに示すことは大切だと思っています。

また、様々なトラブルにも意味があります。辛いときは、「明けな夜はない」と呪文のように唱えたものです。自分を成長させるチャンスだと思えば何とか乗り越えられるはず。そして、試験に感謝する時が必ずやってくると思うようにしています。

子どもは「小さな大人」

「道端の草花を見て命の儚さ・尊さを思う。すべての人が自分と同じように存在していることに想像力を働かせているか」これは、私が毎朝呪文のように唱えている言葉です。子どもは、小さな大人です。十年後の姿を想像しながら未来の彼ら彼女らを意識して接することが大切だと思ひます。教師が子どもの姿を映し出す鏡に徹することで、子ども自身で自

らの行いについて気付いていくはず。そして、私たち教師は、子どもたちに背中を範を示すのだという心構えが肝要です。自分の背中を意識すると、背筋が伸びて自然と前を向けたりします。トラブルがあつて落ち込んだときこそ、背中を見ている子どもたちを意識しながら自らを奮い立たせて教室に向かうときもあるのかなと思ひます。子どもにとって教師は、数少ない身近な大人です。教師が笑顔でやりがいをもつて仕事に取り組んでいる姿を見て、大人になることに希望をもつことができる。言ってみれば、それは最も有効なキャリア教育ではないでしょうか。

子どもの向こうにいる保護者を意識することは大切ですが、過剰に意識してしまふと子どもの成長の芽を摘むことにもなりかねません。現実には様々な事情を抱える保護者とトラブルになることも多いかと思ひますが、その子どもの成長にとって何が大切かというコンセンサスを取ることができ、そしてお互いに目指すところが同じだと思ふことができれば、歩み寄ることは可能です。

仕事とは誰かのために生きること

私は、働くとは、つまり仕事とは、誰かのために生きることだと思ひています。例えば、車の自動運転を研究している人は、車を安全に乗りたひと思ひている人たちのために、医師や看護師は、病気で

苦しんでいる人を助けるために、働いている。世の中のすべての人にその果たすべき役割があり、一人一人異なる、自分だけの役割があるのだと思うのです。言い方を換えれば、その役割を見つけることが進路指導と言うことかも知れません。進むべき道は、子ども一人一人の心の中に必ずあります。様々な学びと経験を重ねる中で、少しずつ育まれていくものであると思います。

それを見つめるまでは、当然子どもたちは悩み苦しむわけですが、そうした彼ら彼女らの悩みに付き合うことが、我々教師の役割でもあると思います。

## 希望という灯り

「もし明日この世が減びるとしても今日、私はリングの木を植えよう」

卒業式で、この先人の言葉をもとにあの東日本大震災の話をしました。今から七年前、その衝撃は学校における防災体制及び防災教育のあり方を大きく揺さぶることとなり、現在に至っています。

震災の年の十月に、多くの児童や先生が亡くなられた宮城県石巻市立大川小学校を訪ねました。学校の裏山を見ながらなぜこの山に登らなかったのかと親ならずとも思わずにはいられないわけですが、当事者としては、あんな津波は想像でできなかったということに尽きるのだろうと思います。

彼らは、地震の直前まで、まさしく、

未来の自分のために、あるいは将来の子どもたちのために、それぞれのリングの木を植えていたのだと思います。その心情を思うとき、この先人の言葉が、重く私に問い掛けてきました。「すべてのことに意味がある」なら、この震災の意味は何なのか。生きるこの意味は何なのか。自分が教師であることの意味を問い質された気がしました。

三年後、廃墟となったままの大川小学校をあらためて訪ねたとき、彼らが亡くなったことにだけ意味があるのではなく、大川小学校でその子どもたちと先生方がそれぞれ希望を抱きながら、自分たちの明日のために、子どもたちの未来のために一所懸命笑顔で学校生活を送っていたことにも、極言すれば、その日常にこそ意味があるのだと思うようになりました。生きるとはどういうことか。子どもたちと向き合うとき、教師自身がどう考えているのかが大切になります。分かんなければわからないでもいい。「生きるとはどういうことか」を、子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて考えることができるか。そして考え続けることができるか。そのために、我々教師自身が考え続けることが大切であると思っています。

社会情勢は、以前にも増して混沌としております。明日も見えない不安があるからこそ、希望という道しるべが必要です。人間は、希望を抱き、希望を語るこ

とができる。だから、生きることができるとののだと思っています。そして、子どもたちは、自分の未来は明るいと思っていれば、明るくしたいと思っていれば、希望という灯りを灯すということだと思います。そういう仕事をしているということが我々教師の誇り、プライドです。

我々教師の仕事は、彼ら彼女らの心に希望という灯りを灯すということだと思います。そういう仕事をしているということが我々教師の誇り、プライドです。

## おわりに

次の詩は、非常勤講師をしている折に教師になる覚悟を日記のように記したものをまとめたものです。「初心忘るべからず」の私の初心なので、恥ずかしい思いもありますが載せました。退職したらレッスンXの心境になれることを祈っております。

## Lesson 1

まず愛することから始めよう  
そんなに難しいことではない  
真っ直ぐに 目を見つめればいい  
きつと心を開いてくれる  
そこから何かが生まれる そして育つ

## Lesson 2

次に 顔で笑って心で泣こう  
彼らは正直 退屈は 教師の責任  
自分の未熟さを棚から下ろして  
毎日磨いて自分を責めろ  
彼らの今日に「もう一度」はない

## Lesson 3

そして 彼らから盗め 若さを  
押し込みはだめ もっと陰険に  
彼らが後でぞっとするような  
そう 吸血鬼のように  
彼らから若さを吸い取ろう  
明日の生徒たちのために

## Lesson 4

時には 自分に正直になろう  
彼らは繊細で敏感で  
そして僕の心をのぞきたがっている  
恥ずかしいが きつと  
彼らのやさしさに触れることができる  
彼ら自身も気付いていないやさしさに

## Lesson 5

いつどんな時でも信じていよう彼らを  
疑うことからは何も生まれない  
たとえ裏切られても 信じていよう  
そうすれば必ず戻ってくる  
はにかんだ微笑みが 彼らのもとに

## Lesson X

最後に 彼らに感謝しよう  
充実した日々が送れたことを  
喜怒哀楽のすべてを  
彼らが与えてくれたことに  
もう一度 愛を込めて  
長い人生の中で この広い宇宙で  
ほんの一時でも 共に過ごせたことへ  
謙虚な心で ありがとうと言おう



— 新城 —

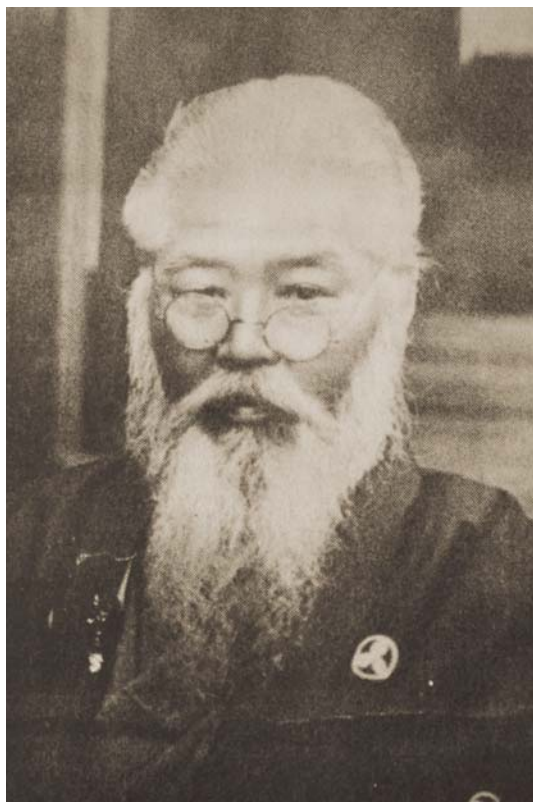
信玄台地の巨人

牧野文齋

新城市立東郷東小学校長

森

誠



初代 牧野文齋

文齋氏は、明治から昭和初期にかけて新城市の設楽原古戦場の台地で、

- ・ 東三河の名医として
- ・ 電気事業の経営者として
- ・ 古戦場の研究者として

幅広く活躍したこの地の巨人です。

牧野文齋とは、かつてこの地の信玄病院の院長である。現在病院跡地の一角に、文齋記念公園と呼ばれる小規模な公園があり、「信玄病院跡地」の碑が建てられている。

昭和八年七月発行の『東郷村報』第十一号は、氏の業績を次のように記している。「氏は永年校医として、又伝染病医として本村のため、御活動下さった。その業たる医術の傍ら、電気会社の創立・図書館の建設等により、地方郷党の産業文化等に貢献せられたことは実に大きい。又、史学を好まれて夙に長篠古戦場顕彰会を起し、史跡保存に力を致され或いは戦史研究に意をそそがれ、多くの文献を書き遺されたと聞く。(中略)」

公私の事業に尽力せられたことは枚挙



信玄病院跡地

に違がない。」

また、柳田國男は『秋風帖』(昭和十五年創元社)で

「医者には昔から志の深い人がいる。長篠の牧野文齋氏のごときも、巨費を投じて熱心に郷土の書を購ひ写させている。どの位学問に近くなったか分からぬ。是以上は単に近づき得る人の有りや無しやだけが問題である」と述べている。

このように、その幅広い業績を各方面から高く評価される牧野文齋について、資料を手掛かりに紹介してみたい。

## 信玄の牧野家

注1

牧野家は、文齋の祖父龍庵(一八一〇〜一八八六)が、一宮村江島(現豊川市)から信玄に移り住み、「陽春堂」の名前で町医者を始めた。

文齋の父謙作(一八四〇〜一九〇九)は、若い頃蘭方医杉田玄白の弟子に学び、その後慶応三年医師牧野家を相続した。謙作は陽春堂を「牧野医院」に改名し、明治二十四年に隠居した。

その子が、ここに述べる文齋(一八六



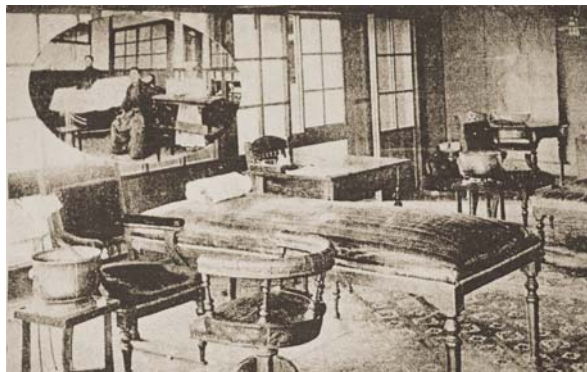
平成10年代までの信玄病院本宅・長屋門

八(一九三三)である。十九才で医術開業試験に合格し、東京で修行の後、父の隠居で牧野医院を引き継いだ。その後、牧野医院を「信玄病院」と改名し、新たな病院経営に全力を注いだ。病院の基盤が確立充実した四十才頃から病院経営の他に、多くの新事業を手掛け、この地域の発展に大きな役割を果たした。

昭和八年、文齋の死去により、その子幸民(一九〇五〜一九七六)が文齋(二代目)を襲名し信玄病院長となった。以後、東郷東小学校等近隣学校の校医をはじめ、半世紀近く地域住民の健康管理に貢献した。昭和五十一年一月、文齋(幸民)の死去により信玄病院は閉院することになった。



西病棟の廊下



診察・治療室（円内は医務局）

## 信玄病院の隆盛と町並み

明治四十一年、信玄病院を設立した文齋は、その手腕と実績からやがて「東三河の名医」の評判が高まっていた。当

時東三河地方屈指の病院としてその最盛期には、スタッフが二十名、三つの病棟には百人から二百人位の入院患者がいたようである。この頃、文齋院長の次弟熊太郎の妻が病院隣で薬局を経営し、現代の医薬分業の先駆けともなる形態を取り入れていた。

本格的な病院の極めて少なかった当時、信玄病院には毎日、外来と入院で大勢の人が訪れた。対応する病院の仕事は多岐多様で、働く人も多かった。その頃、電車の開通は大海までが明治三十三年、三河川合まで大正十二年で、病院に来るのも大変だった。関連して必要なものを整える手間も多く、来院のついでに買い物ができたらという要望に応じて、病院の近くにいろいろな店が立ち並ぶようになった。

大正二年に病院の東側に劇場「花菱座」を開設した。地域の人寄せや集会のあると共に、来院する関係者への娯楽提供の場を意図していたものと思われる。

## 地域を拓く電気事業 注2

病院経営の傍ら、文齋は製糸場や信用組合の設立を進めたが、本格的には明治四十四年、新城町に資本金二万円で設立した新城ガス株式会社からである。新城町及び東郷村にガス供給を行った。このガス会社に始まって、電気会社の設立、水力発電所の買収、火力発電所の建設へと進んだ。当初、電気の供給区域は、一

町十か村の約千五百世帯であったが、十年後には一万一千世帯と順調に発展していった。また、配電・配線の電気工事に使用する碍子類生産も、合併した三河陶器で行った。

- 一九一一年（明治四十四年）  
新城ガス会社設立
- 一九一八年（大正八年）  
東三電気株式会社設立
- 一九二一年（大正十年）  
三河陶器株式会社を買収・合併
- 一九二二年（大正十一年）  
千郷火力発電所建設
- 一九二六年（昭和元年）  
遠三電気と渋川電灯所を買収・合併
- 一九二八年（昭和三年）  
三河水力電気と東三電気合併

## 牧野文齋が手掛けたガス・電気事業

こうした強力な電気事業の推進は、電気の時代を見据えた文齋の慧眼によるものであろうが、「もつと明るい診察室を作りたい」という文齋の切実な願いが背景のように思われる。

## 私立図書館の設立

牧野図書館は、大正四年に大正天皇の即位を記念して信玄病院の一角に独力で開館された。図書館は、縦横各六間の二階建て洋風建築の書庫と、同規模の平屋建ての閲覧室があり、事務員二名を配置し、売店も備えたものであった。

図書館では、書籍を二千元（当時）で豊橋の榎本書店から購入し、さらに個人所有の古文書、一般からの寄贈や寄託のものを加え、二万冊を超える蔵書数を誇っていた。

ここには、県や郡役所などから閲覧に来る人があり、図書も無料で貸し出しが行われていた。また、有志による読書会という研究会の会場ともなり、地方文化の発展にも貢献した。しかし、諸般の事情で昭和十二年に閉館になった。文齋の死後、二代目文齋は図書の活用を考え、当時建設予定の町立図書館へ一万三千余冊を寄贈した。現在、新城市図書館に牧野文庫として収蔵されている。



信玄病院診療棟と牧野図書館



## 古戦場の研究と顕彰

医師として事業家としての文齋が、地元の古戦場研究やその顕彰活動に関わったのには、全く異なる二つの事情があったように思われる。

一つは、自分の病院に來た人たちへの精神的サービスの提供である。著名な戦国武将の塚やそれを巡る散歩コースは現代のリハビリの一環を意図したのではなかっただろうか。

大正四年に長篠古戦場顕彰会設立総会が花菱座で開催された。南設楽郡長を会長に、自身は副会長として、天正の戦いにおける戦没者供養、遺跡の保存、顕彰などに努める活動を行うものであった。設楽原の決戦場跡地を中心に、戦跡案内石標と武田諸將の墓碑を建立。その数は石標が四十三、碑が十一に上った。

また、昭和五年には独力で陣没者慰霊の信玄祖師堂・忠魂堂を開設した。

もう一つは、文齋の遺稿に読み取ることができる。

「予、先年（大正七年）糟糠ノ妻ヲ喪ヒ孤閨悄然、万感胸ニ迫リテ眠ズ：於此、奮然決起、筆硯ト相親ム」と。このエネルギーこそが、和紙二千五百枚に及ぶ研

究報告「長篠・設楽原」である。

この文齋の遺志は、「設楽原をまもる会」が受け継ぎ、現在も史跡に関する保存、戦没者供養、研究活動が行われている。

古戦場の顕彰に傾注する中、文齋は三つの原稿をまとめている。

- ・長篠戦史考（全一冊）：山家三方衆の由来から武田家滅亡までの戦いから設楽原決戦後の消息まで
- ・戦国時代史論（全十五冊）：応仁の乱から戦国時代の終焉まで

しかし、加筆、修正を繰り返して、推敲の苦労の中、原稿をまとめあげることができなかった。



すざわ 馬場信房碑



信玄病院初代院長牧野文齋は、病院経営の傍ら数多くの事業に経営手腕を発揮し、晩年には古戦場の研究と顕彰に情熱を燃やし、言葉通り地元の発展に多大な功績を残した。昭和八年、多くの人に惜しまれつつ六十六年の生涯を閉じた。

文齋の死去により、その跡を継いだ二代目文齋（幸民）は、多方面で手腕を発揮した父文齋とは異なったかたちで地元の人々に大きく貢献した。

「やさしいまなざしと大きな温かい手で診察してくれたことは、今も忘れることができない。事情によっては、医療費を請求されなかった」と、当時を知る地元の人たちは語る。地域のあらゆる階層の人々に全く同じ態度で接し、その人望は格別で、昭和の「赤ひげ」先生と慕われた。

| 年    |      | 文齋氏の歩み               |
|------|------|----------------------|
| 1868 | 明治元  | 現新城市八束穂で生まれる         |
| 1887 | 明治20 | 医術開業試験に合格            |
| 1891 | 明治24 | 信玄病院3代目院長を継ぐ         |
| 1911 | 明治44 | 東三電気(株)の前身、新城瓦斯(株)設立 |
| 1913 | 大正2  | 劇場の花菱座を1921年まで経営     |
| 1915 | 大正4  | 私立牧野図書館を病院の一画に開館     |
| 1917 | 大正6  | 東三電気(株)設立、牧野文齋が社長に就任 |
| 1921 | 大正10 | 三河陶器(株)を合併           |
| 1926 | 大正15 | 遠三電気(株)と渋川電灯所を合併     |
| 1928 | 昭和3  | 三河水力電気(株)が東三電気を合併    |
| 1933 | 昭和8  | 逝去                   |

文齋没後八十四年、信玄病院閉院四十四年後の平成二十九年、「設楽原をまもる会」によって記念講演会「設楽原顕彰の恩人・牧野文齋氏を語る」が開催された。当日は、文齋の孫にあたる牧野尚彦氏（前兵庫県立尼崎病院院長）、泰之氏（前東京高検事務総長）が出席され、「設楽原をまもる会」からお二人に、「文齋氏に申し上げるべき地元としての感謝」のことが伝えられた。

注1 信長命名の信玄塚から「信玄」の地名に注2 この時期フィラメントの改良から電気の優位が確立した

### 主な参考文献

『設楽原をまもる会会報29特別号』  
『中部のエネルギーを築いた人々』  
日本電気協会中部支部編 など



## 刊行物とわたし

### 刊行物「楽しい読書」とわたし

―読みやすさ、活用しやすさを求めて―

豊川市立一宮南部小学校

編集副委員長 鈴木 明美

「楽しい読書」は、各学年百ページ

以内にまとめられたコンパクトな本です。教科書に採用されている作家の作品、子どもたちに人気があり絵本として市販もされている作品、科学的読み物、昔話、落語などなど、その学年に合った、本当に幅広いジャンルの作品があふれています。また、一、二年生用では、挿絵や写真をたくさん入れたり、教科書と同じ分ち書きで文章が書かれているなど、発達段階に応じた読みやすいものとなっています。

読みやすさだけでなく、読書タイムなどの自主的な読書活動、読み聞かせ、国語の学習の並行読書など、様々な場面で活用することができるのもおすすめです。

活用するときには、全ての作品の終わりに「読書のでびき」を設けているので参考にしてください。作品を読むときのポイントや読書後の活動を示してあります。子どもも指導者も、作品を振り返る手立てや、読書の幅を広げる手立てとして生かすことができます。

また、巻末には、「先生と保護者の皆様へ」のページがあり、そこには、



「読書によって何が身に付くか」や、「学年に応じた読書をどう進めたらよいか」などについて書いてあります。

学校や家庭で、子どもの感受性を育み、心を豊かにする読書指導の一助としていただけることと思います。

編集委員は、発達段階を踏まえ、様々な分野の本の中から掲載作品候補を選定しています。掲載順を考えたり、割り付けをしたりと、子どもたちの読書後の笑顔を楽しみに、情熱を傾けて編集しています。ぜひ、手もとに置いて親しんでください。



### 刊行物「冬休み日誌」とわたし

蒲郡市立三谷小学校 六年  
(現 蒲郡市立三谷中学校 一年) 足立 結菜



「冬休み日誌6年」の表紙絵

「三谷祭の絵」をかくという時に、かくなら動きのある絵にしたいと考えていました。たくさんある三谷祭の写真の中から一枚の写真が目にとまりました。今にも動き出しそうな躍動感あふれるその姿に見入ってしまいました。この姿をかきたいとすぐに決めました。棒の動きを特に意識してかくようにしました。踊っている感じを出すのは意外に難しく、かいては消してと、何度も繰り返ししました。私は今まで、子踊りの絵をかいたことがなく、なかなか思い通りにうまくかくことができなかったけど、時間をかけて、ていねいにかくことができたので、満足のできる作品を完成することができました。がんばってかいてよかったです。

「三谷祭」と言えば、さらしを巻いた半裸身の氏子たちが、四台の絢爛豪華な山車を曳き町内を練り歩いた後、海に曳き入れる迫力満点の「海中渡御」が行われる盛大な祭です。また、二日間にわたり、町内の六地区それぞれが奉納踊りも行います。その中の北区の子踊りを取り上げ、その魅力を上手に表現できていると思います。衣装の模様も一つ一つ細かい所まで描き、煌びやかな色

で表現したことで、さらに見る人を引き付ける作品になっています。また、人物については、顔の表情や棒を持つ手などが丁寧に描かれており、「かっこよく踊るぞ」という気持ちがいしひしと伝わってきます。

全体として、結菜さんの「三谷祭」の子踊りに対する思いが感じられ、動きのある作品に仕上がっています。

(指導者 三谷小 大須賀恵子)



## 成長を感じた

### 「なかよし遊び」

知立市立来迎寺小学校

三輪 教子

「二年生ってどんな遊びが好きかな。」  
「私がやってもらった遊びは、大根抜き  
でとっても楽しかったよ。」

「今まで、お兄さんたちが優しくしてく  
れたから、ぼくも優しくしてあげたい。」  
異学年交流会「なかよし遊び」に向け  
ての話し合いである。私のクラスは四年  
生。上学年となり、初めて計画を立てる  
立場になった。

今までは、通学班で上級生にわがまま  
を言っていた子や自分の身の周りのこと  
も十分にできていない子も、このときは  
かりは、お兄さんお姉さん気どりで、懸  
念に案をひねりだしていた。今まで上級  
生にしてもらったことを思い出しなが  
ら、楽しそうに話し合う姿に私の顔もほこ  
るでしよう。

遊ぶ内容が決まると、今度は準備に取  
りかかった。話し合いでは、あまり意見  
が言えなかった子も、会での台詞を考え  
たり、二年生の役になって、問題点を  
出し合ったりと、それぞれが自分の個性を  
生かして精いっぱい参加している。全員  
が心を一つにして準備している姿が頼も  
しい。

そして迎えた「なかよし遊び」当日。



開始前にはとても緊張していた。  
「準備はこれでよかったかな。」  
「喜んでもらえるようがんばろう。」  
と、お互いに言葉を掛け合い励まし合  
いながら、会を成功させようと気合いを  
入っていた。  
最初は、おどおどしていた子どもたち  
も、いざ遊びが始まると、徐々に緊張も  
ほぐれ、どのグループも自分たちのペ  
ースで会の進行をしていた。子どもたち  
信じて任せることの大切さを感じた。  
「遊んでくれてありがとう。」  
「また遊んでね。」  
と、ペア学年である二年生からの言葉に、  
どの子も満足気であった。  
異学年交流を通して、一人ひとりが自  
信をもち、上級生としての自覚ができた  
と実感した。このような時間を、これか  
ら積極的に生み出していきたい。

## 教室の窓辺

### 伝統を受け継ぐ

田原市立伊良湖岬中学校

小野 智史

鷹一つ見付けてうれしいらご崎

かの有名な松尾芭蕉がこう詠んだ伊良  
湖岬に昭和二十二年、伊良湖岬中学校が  
誕生して、今年で七十二年が経ちます。  
そして、本年度を最後に福江中学校と統  
合します。

全校生徒百一名の本校には、特色ある  
活動があります。全校生徒を「朱雀・白  
虎・青龍・玄武」の四つに分けた縦割り  
班活動です。野外活動や運動会など、本  
校では縦割り班で行っています。そのお  
かげで、伝統は先輩から後輩へと自然な  
形で受け継がれています。

伊良湖岬中学校の伝統の一つに演舞が  
あります。舞の音源はオリジナルです。  
縦割り班ごとに、過去の先輩たちが考え  
た振り付けをアレンジします。そして、  
毎年九月に行われる運動会で披露してき  
ました。どの班も最優秀賞を目ざして一  
生懸命練習します。全員の動きをそろえ  
る道のりは決して平坦ではありません。

演舞の練習は、三月から始まります。  
卒業する三年生が、新しくリーダーとな  
る二年生に、使い込まれてボロボロにな  
った一冊のノートを手渡します。「演舞  
ノート」です。このノートには、先輩た  
ちの演舞に対する思いがびっしりと書き  
記されています。二年生はこのノートを



受けとることで、演舞の伝統や自分に与  
えられた使命を実感します。  
四月になり、入学したての一年生と一  
緒に演舞練習が始まります。進級した  
二・三年生が振り付けはもちろん、言葉  
遣いやあいさつについても指導します。  
ある三年生が私に、「一年生が敬語を  
使えん。」と不満げに訴えてきました。  
私は、「(君たちも一年生のころは先輩た  
ちにそう言われていたよ)」と内心思いな  
がら、「敬語の使い方を知らないだけだ  
から、優しく教えてあげて。」と声をか  
けます。先輩になると伝えたいことがで  
き、それが受け継がれていくのです。  
伝統ある岬中の演舞が今年で最後を迎  
えてしまうのは大変残念です。すべての  
人の心に残るような素晴らしいパフォー  
マンスをさせて、有終の美を飾ろうと思  
います。



## 学校教育ボランティアグループ活動紹介

### 読書の楽しさを引き出す読み聞かせ活動

#### 安城市立二本木小学校 読み聞かせクラブ「ありす」

安城市の北西部に位置する二本木小学校は、全校児童八百十二名の大規模校です。そのうち外国にルーツのある児童が百人以上在籍している国際色豊かな学校です。

読み聞かせクラブ「ありす」は、二十一年前にPTAや地域の方によって結成されたクラブです。子どもたちに読書の楽しさを知ってもらおうと様々な活動に取り組んでいます。

#### ◆読書タイム

子どもたちは、毎週月曜日・水曜日の八時十五分から始まる読み聞かせをとて



も楽しみにしています。登校しやすくランドセルをしまい、読み聞かせの場所に座ります。子どもたちが、お話の世界にのめり込んでいく様子が微笑ましいです。

#### ◆昼の読み聞かせ

図書室で毎月二回、昼休みに全校児童対象に読み聞かせを行っています。どの学年の子どもたちも楽しめるように大型の絵本や紙芝居など工夫を凝らした方法

で行っています。昼休み終了の時間になると「もっと聞きたいな」「次は、どんなお話をしてくれるの」と次回を期待する声が聞かれます。

#### ◆読書まつり

十月に図書委員会を中心に読書まつりが行われます。企画の一つに「ありす」の読み聞かせがあります。



大型スクリーンに挿絵を放映したり、寸劇を交えたりしながらストーリーが展開されます。「ありす」のクラブ員だけでなく、校長・教頭も参加します。子どもたちの想像を超えた読み聞かせは、大いに盛り上がります。

読み聞かせクラブ「ありす」の皆さんのおかげで、子どもたちは本に親しみを感じるとともに、様々なお話の世界に浸る楽しさを味わっています。

「ありす」の活動そのものが、児童・保護者・職員等の和やかな関わりを育んでいます。

(安城市立二本木小学校教諭 山村育余)

### ありがとう OHANA倶楽部

田原市立赤羽根小学校

田原市立赤羽根小学校の読み聞かせボランティア「OHANA倶楽部」は、発足して十三年目となります。名前の由来は、ハワイ語で「家族」。校区は、この九月、日本で二十八年ぶりにサーフィンの世界大会が開催された地。学校行事として、「親子ボディボード体験学習」が開かれるほど海と馴染みの深い地域です。ハワイと似ているとは言えませんが、「OHANA倶楽部」という名前は、ぴったり。

メンバーが選ぶこともあるそうです。子どもたちの顔を思い浮かべながら選書している時が、勝負の時であり楽しみでもあるそうです。

#### ◆振り返りを生かし進化させる

毎学期末、振り返りの会をもちます。

- 一学期末の振り返りより
- 子どもらしい反応で読みやすい。
- 高学年は、選書が難しい。
- 年生は、注意しているとなかなか始められない。
- 等

振り返りを二学期に生かします。

- 二学期末の振り返りより
- 戦争関係の本を読んだら、質問がいつぱい出た。疑問を解決するために調べてくれるとうれしい。
- 興味をひく声かけや読み聞かせテクニクで、自然と本の世界に引き込まれることが分かった。

常に考え、挑戦し続けるOHANA倶楽部の皆さんの姿勢に、頭が下がります。「来た。来た。」廊下の窓から顔を出し、読み聞かせを楽しみにしている子どもたち。「今日は僕のリクエストの本を読んでもらうんだ。」と、ファンがいつぱいです。

(田原市立赤羽根小学校教頭 鶴見美代子)

## 自分の安全は自分で守る

「みんなの安全」を活用した取り組み

安城市立里町小学校 福田 公仁

学校周辺にはガードレールや横断歩道が整備されているが、学区内には、車道と歩道の区別がついていない道路が多い。

また、川沿いの道路や国道への抜け道として交通量が多い道路もあり、それらは生活の中でも使用されている。児童が道いっぱいに広がってしまい、車の進行を妨げてしまうこともある。登下校時にはスクールガードの方の協力もあり、安全に登校できている。しかし、帰宅後や休日は道いっぱいに広がってしまうこともある。児童自身が安全への意識が高いとは言えない実態がある。そこで、自分の安全は自分で守る意識を高め、道路を使うときにはどのようなことに気をつければよいかを考えられるように本実践を行った。

### 「みんなの安全」について

「みんなの安全」には、児童の生活場面をイラスト化したものや、写真資料が充実している。だから、視覚的に分かりやすい。また、統計資料としてのグラフは必要な情報のみが提示されているため、読み取りやすく、項目間の比較がしやすい。文章を記入するだけでなく、色をぬったりシールを貼ったりして活動するページもあり、特別な支援を要する児童にも優しい魅力の教材である。



### 「みんなの安全」を使った授業実践

四年生版の「③道路はきけんがいっぱい」には、見開き二ページにわたって道路付近にいる歩行者、自動車、自転車、遊んでいる人がイラストで描かれている。初めに、「確実に事故に遭う人はどれか」と問うた。すると、どの人物が事故に遭うかを容易に見つけることができた。そこで事故に遭う人物は、よそ見をしている、周りを見ていない、飛び出しをするという特徴があることを確認した。



次に、「事故に遭わずに済む人はどの人か」と問うた。周りが見えていないけれども、事故に遭う可能性があることにも目を向けられるようにするためである。児童の意見が分かれたのは上のイラスト、キャッチボールをしている二人の横を、自動車を通り過ぎた場面である。この絵の左側の男の子に注目した。人数分布は次のとおり。

事故に遭う…20人  
事故に遭わない…7人  
それぞれの立場で理由を述べた後、討論を行った。討論では、次のような意見が出た。

《事故に遭う》  
・車が後ろに下がってくるかもしれない。

・もしボールを取り損ねたら、追いかけるから。

・後ろから車が来るかもしれない。

《事故に遭わない》

・道の端でやっているから大丈夫だ。

・飛び出せる場所がない。

最後に感想を書いて終えた。次のような感想があった。

・そもそも事故に遭う遭わないじゃなくて、道路で遊んではいけないので、自分で周りを見られるように気をつけたい。  
・車は自分たちに気づいていないかもしれないから気をつけたい。

・僕も車に気づかないことがあるかもしれないから気を付けたい。

・もし友達が飛び出しかをしそうになったら、注意するようにしたいです。  
以上のように、さまざまな可能性を予測する発言、記述が見られた。道路を使う際に生かされることを期待する。





本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、次の先生方に助成しました。次年度も積極的な応募をお待ちしています。

(二百十名)

豊田・市木小・後藤明日香

蒲郡・蒲郡北部小・鈴木 基子

○主体的に課題を追究し、学び合いを通して多角的に考えを深める生徒の育成

○互いの考えを聴き合い、よりよい考えを導け  
子の育成 安城・丈山小・都築 舞

○根拠と自信をもった発言で主体的に問題解決

- 11 -

○話し合いを通して、自分の考えを深めることができる子の育成 西尾・西野町小・林 孝明  
○考えを伝え合い、友達と学び合う子どもを育てる 西尾・平坂小・平原 美穂  
○かわかることの楽しさに気づき、自らの考えを伝え、共に学び合う子を育てる 西尾・萩原小・時岡 健

○見通しをもち、友達とのかかわりの中で、自らの考えを深められる子 幸田・中央小・村田和歌子

○自信を持って自分の考えを説明できる子どもの育成 豊川・八南小・牧野 友香

○自ら考え、共に学び合う中で、「学ぶって楽しい」と思える子の育成 新城・舟着小・平野 瑞季

○対話を通して学びを深める児童の育成 北設・清嶺小・内藤希世美

○算数的活動を生かし、友達と考えを伝え合いながら、問題解決できる子の育成 北設・東栄小・鈴木 桂吾

○基礎と基本を定着し、主体的に課題に取り組む生徒の育成をめざして 岡崎・葵中・田中 勇至

○主体的に学び、協働的に取り組むことができる生徒の育成 碧南・新川中・岡田 将志

○関わり合いを通して自分の考えを深め、表現できる生徒の育成 豊田・石野中・伊藤 彰悟

○与えられた問題の結論を導く根拠を、自ら考え説明することのできる生徒の育成 安城・安城南中・神谷 政希

○相手意識をもち、互いに思考力・表現力を高め合う生徒の育成 安城・安祥中・伊藤 亜珠

○主体的に数学的活動に取り組むことができる生徒の育成 高浜・高浜中・原 美実子

○意欲的に学び、自信をもって自分の考えを表現できる生徒の育成をめざして 豊川・代田中・中村 貴亮

○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し自ら学びに向かう生徒の育成 蒲郡・形原中・稲吉 一志

○主体的・協働的な活動を通して、数学的な思考力を高めることができる生徒の育成 田原・東部中・都築功二郎

## 《理科》

○主体的に活動し、科学的な見方・考え方のできる子の育成 岡崎・愛宕小・加納 里乃

○主体的に問題を見つけ、見通しをもって科学的に解決する子どもの育成 豊田・豊松小・清須 有希

○問題意識を持続しながら主体的に活動し、考えを深め合える子どもの育成 豊田・五ヶ丘東小・永田 翔一

○科学的な見方や考え方をもち、表現できる児童の育成 安城・安城北部小・高津 風哉

○科学的な見方、考え方を育てる理科学習 安城・錦町小・寺窪 佑騎

○主体的・対話的で深い学びを通して、追究し続ける児童の育成 安城・桜井小・畔柳 陽

○主体的・協働的に学び、進んで自分の考えを表現できる子の育成 知立・八ツ田小・神谷 美佳

○自分の考えを整理しながら、物事の追究ができる子どもの育成 高浜・高浜小・野田 高広

○仲間とかかわり合いながら、ものごとを筋道立てて考え、主体的に活動することができるとする子の育成 幸田・坂崎小・佐原 尚樹

○追究意欲をもち、協働して問題を解決することができる子どもの育成 幸田・中央小・三浦 圭裕

○身近な素材をもとに「主体的・対話的で深い学び」を実現できる子の育成 幸田・萩谷小・犬塚 創太

○課題を解決するための個人追究や仲間との関わりを通して、考えを広げ深められる子の育成 豊橋・多米小・石川 一貴

○自らの力で新たな見方や考え方を生み出し、粘り強く追究活動を続け、考えを深める生徒の育成 刈谷・雁が音中・青木 将司

○科学的知識を身に付け、生活に応用しようとする生徒の育成 豊田・美里中・河合 映

○生徒の学習意欲を高め、確かな学力を身につける授業づくりをめざして 豊田・小原中・山本 健登

○学ぶ楽しさを実感し、進んで科学的に追究する生徒の育成 安城・東山中・石川 裕一

○自然の現象について自分の仮説をもち、主体的に活動する生徒の育成 高浜・高浜中・福田 泰子

## 《音楽》

○共に考え、思いをもって表現する子どもの育成 豊田・前山小・日比野香代

○ふるさとへの思いを歌にして届ける子の育成を目標として 豊田・稲武小・原田 有菜

○音楽の形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明することのできる生徒の育成 豊田・朝日丘中・福田 真美

○友だちの意見から見方を広げることのできる生徒の育成を目標として 豊田・大林小・岩谷 智明

○鑑賞活動を重ねることによって造形力の高まりを実感できる美術科教育 西尾・平坂中・鈴木 悠斗

○ものづくりを通して、生活をよりよく工夫しようとする子どもの育成 岡崎・梅園小・本郷 水紀

○友達との関わり合いの中で効率の良い方法を考え、見通しをもって製作を進めることのできる子の育成 刈谷・朝日小・木尾 直矢

《技術・家庭》

○生活の中のグッドデザインを追い求める授業づくり 西尾・西尾中・鵜飼 礼美

○ものづくりを通して、積極的にいかかわり合いながら知識と技能を習得できる生徒の育成 西尾・平坂中・尾山 皓一

○製作に対する自信をつけながら、意欲的に製作に取り組もうとする生徒の育成 高浜・高浜中・後迫 隼司

○生活の中の問題について学び合い、基礎的・基本的な知識及び技術を習得できる生徒の育成 高浜・南中・鈴木 零未

○学びや経験をいかし、生活を豊かにする生徒の育成 蒲郡・蒲郡中・小林 宏伸

○自分のプログラムを順序立てて説明することができる生徒の育成 北設・東栄中・伊藤 寛幸

## 《体育・保健体育》

○自分の目標をもち、友達と関わり合いながら運動に主体的に取り組む子の育成 岡崎・井田小・尾張 早苗

○やりたい意欲とできた実感を高める体育学習 岡崎・井田小・伊藤 慎浩

○運動の心得を守って運動に親しみ、友達と関わりながら自己の課題を達成しようとする子の育成 岡崎・大樹寺小・大西 純平

○「できる」喜びを味わい、友達と関わり合って運動に親しむ子供の育成 岡崎・矢作北小・竹田 俊一

○仲間との意見の伝え合いを通して技能を高め、「できるようになること」の喜びを味わう体育学習を目標として 豊田・寺部小・後藤 啓太

○関わり合いを通して、自ら動き出す児童の育成 豊田・市木小・川満 一世

○戦術や作戦を立てることの面白さを知り、仲間と共に運動に親しむことのできる子の育成 豊田・稲武小・内田 達也

○他者との関わりを通して主体的に問題解決できる児童の育成 安城・里町小・仲田 知佳

○仲間とともにトライをめざし、課題解決していく子どもの育成 西尾・一色西部小・古久根 諒

○学びを深める子の育成 高浜・吉浜小・稲垣 友和

○運動の楽しさを感じられる子の育成 幸田・深溝小・鈴木 豪

○運動する楽しさや喜びを味わいながら、仲間との関わりを通して、課題の解決に向けて自ら取り組む子の育成 豊橋・多米小・長谷部 繁

○意欲的に運動に取り組む八名つ子の姿を目指して 新城・八名小・天野 征哉

○ゲームの魅力に没頭し、対話的で深い学びが実現する単元モデルの開発 田原・衣笠小・光本 允

○自他の課題を見つけ、その課題解決のために学び合いながら高め合える生徒の育成 豊田・竜神中・乙守 将人

○ゲームが先生、技術から戦術へ 豊田・足助中・森 喜嗣

○スポーツの特性や魅力に着目し、ルールや練習方法を考える活動を通して体育の見方・考え方を育てる体育学習 豊田・下山中・中倉 航



○自ら学ぶ生徒を育てる体育学習

蒲郡・蒲郡中・稲石 享哉

○かわり合いを通して主体的に追求する生徒の育成

蒲郡・形原中・牧原 充典

○自他のよさを認め、仲間と関わりながら主体的に課題を解決しようとする生徒の育成

田原・田原中・糟谷 賢太

○自他の動きを分析することで、つなぐ技能を高め合う生徒の育成

北設・豊根中・齊藤 峻介

### 〈外国語活動・外国語〉

○相手意識をもち、友達とかわりながら積極的

に外国語を話そうとする子の育成

豊田・大林小・福井 優

○英語に慣れ親しみ、すすんでコミュニケーションを図る児童の育成

豊田・平和小・内田 智子

○相手を意識して、自己表現できる子の育成

西尾・中畑小・鈴木 崇弘

○移行期間における外国語科の単元構想と授業スタイルの確立

西尾・一色中部小・高橋 佐織

○相手意識をもつてコミュニケーションを図ろうとする子の育成

高浜・高取小・深谷 友貴

○「話したい、聞きたい、読みたい、書きたい！英語大好き！」な子の育成

新城・作手小・武井 智美

○豊かなコミュニケーションを通して、英語で思いを伝え合う楽しさを味わう子どもの育成

北設・田口小・金田 恵実

○ICT機器の活用を通して、ALTとの会話を楽しむ生徒の育成

豊田・竜神中・西野 優太

○英語の基礎を身につけることで自信をつけ、かわり合いを通して効果的に英語でのコミュニケーション力を高める生徒の育成

安城・安城西中・田中 麻穂

○仲間と関わり合い、すすんで英語で伝えようとする意欲を高める授業

西尾・吉良中・富永 寛

○自ら学ぶ生徒を育てる英語科の授業

蒲郡・蒲郡中・渡邊 由惟

○伝えたい気持ちや挑戦する気持ちをもって英語を話すことで、伝わる喜びを感じられる生徒の育成

北設・津具中・後藤 壮登

### 〈生活〉

○学びに向かう力をつける子どもの育成を目指す

岡崎・美合小・蜂須賀一輝

○気付きを言語化する中で思考を深め、気付きの質を高める授業

岡崎・三島小・羽根測佑美

○気づき、考え、自ら動き出す子の育成

豊田・市木小・澤井謙太朗

○明和の「大好き」を見付け、仲間とともに意欲的に活動する子をめざして

安城・明和小・宮本祐利子

○人とかかわりにより思考を深め、進んで表現する子の育成

安城・志貴小・小田 珠子

○他者との関わりを通して主体的に問題解決できる児童の育成

安城・里町小・柳生 朋美

○自ら『はてな』を追究し、仲間と共に学びを深めていく子の育成

西尾・寺津小・近藤 悠以

○目的をもつて追究し、友達と関わりながら学ぶ子どもの育成

みよし・北部小・塚本 梨香

○自ら追究し続ける子の育成

蒲郡・蒲郡南部小・原田 麻帆

○校区を知り、校区のことが好きな子の育成を目指す

田原・衣笠小・大橋なお美

○友達とかかわりあいながら、共によりよく生きる力を育てる道徳の授業

岡崎・美合小・柴田 泰枝

○自己を見つめ、よりよい生き方を考える子の育成

岡崎・三島小・天野 志保

○多彩な考え方に触れ、価値観を認め、受け入れられる子どもを育成する道徳の授業

豊田・大沼小・林 愛弓

○仲間の意見を聴いて、自らの考えを再構築することのできる子どもの育成

安城・安城南部小・伊奈 倫瑠

○問題を自分事として捉え、主体的に問題解決に向かおうとする子の育成

安城・桜町小・中山 えみ

○互いに認め合い、向上しようとする児童の育成

安城・二木木小・山田 淳美

○社会の一員としての自覚をもつ児童の育成

安城・新田小・篠原 正樹

○いじめ防止！友達とよりよく関わる子の育成

西尾・福地南部小・森 潤一

○いじめのない学級を目指して！友達とよりよくかわらうとする子の育成

西尾・福地南部小・米津 朋美

○仲間との関わりの中で友達や自分のよさに気づき、思いやりのある行動ができる子の育成

高浜・翼小・磯部あゆみ

○物事を多面的に考え、自己の生き方を追求し、主体的な行動のできる子の育成を目指す

豊川・中部小・白岩 和樹

○互いの考えを伝え合い、よりよく生きようとする生徒の育成

豊橋・青陵中・鈴木加奈絵

○心豊かに、よりよい生き方を求める生徒の育成

蒲郡・塩津中・安藤 涼二

○児童・教職員の危険予知能力と緊急時対応能力向上を目指す

碧南・日進小・村松 麻衣

○自分の生活を見直し、健康な生活を送ることができる子の育成

豊田・道慈小・深田 暖生

○よい姿勢で学習できる児童の育成

安城・高棚小・水谷 小春

○むし菌・歯肉炎の予防を意識した生活ができる子の育成

田原・衣笠小・間瀬 晴香

○自身の心の健康に興味・関心を持ち、健やかにたくましく学校生活を送る生徒の育成

安城・安城北中・近藤 優芽

○困り感を目標へと変換し、やりたい気持ちを育てる自立活動

岡崎・生平小・長江 信子

○感情のコントロールと自己表現力の向上のための支援

西尾・福地南部小・吉川 公晴

○言語学習の充実による友達とかかわりを深める子どもの育成

西尾・三和小・藤井大二郎

○言葉や文字に興味を持ち、自分から聞いたり話したり伝えたりしようとする児童の育成

西尾・一色南部小・中根志恵

○興味・関心に合わせた体験活動を通して、他者のことを意識して自分の思いを表現できる子の育成

豊橋・小沢小・箕浦 啓太

○自らの思いを相手に伝え、協働学習を通して自らの考えを深める生徒の育成

岡崎・葵中・古家茂枝子

○人とかかわりを広げる、教科・領域等を核に日常生活との関連を図る指導形態の工夫

豊橋・青陵中・後藤 怜美

○人の役に立つ喜びを感じ、自ら動き出すことができる生徒

蒲郡・形原中・小田 直幸

### 〈総合的な学習〉

○明和の町の課題解決のために主体的・対話的に活動し、町への愛着を深める子の育成

安城・明和小・石川 敬祐

○地域に愛着をもち、自らの学びを深める子の育成

安城・明和小・八瀬尾麻美

○情報を集め、それらを整理・分析し、アウトプットできる子の育成

高浜・翼小・伊藤明希良

○相手の立場を考えて、積極的に社会参画しようとする児童の育成

幸田・幸田小・志賀 功宗

○地域の大人の姿を学び、自分の未来像を本気で考える子どもの育成

豊橋・花田小・村上 真章

○地域の人々の思いや願いに寄り添い、深めた考えを実現する子の育成

豊橋・花田小・古田 博一

○協働的に学びあい、社会に参画しようとする子どもの育成をめざして

豊橋・多米小・八田 和久

○自己の考えを高め、社会に役立つ生き方を追究できる生徒の育成

幸田・南部中・若旅理紗子

○主体的・対話的に進めるプログラミング学習の工夫

岡崎・愛宕小・高瀬 玲子

○互いに学び合い、基礎的な知識や技能を確かなものにする生徒の育成

豊田・梅坪台中・川口 祐作

○どう関わる？SNSの向こう側の人

蒲郡・形原中・堀内 智晴

○対話的活動を通してキャリア発達を促し、「自己の生き方」を考え、深める特別活動

岡崎・美合小・多田 結香

○他者との関わり方や自己表現方法を学び、自己有用感を感じることができるとする子の育成

岡崎・矢作南小・石川裕一郎

○児童の豊かな人間関係の育成をめざして

碧南・日進小・重松 利有

○リーダーとして自ら関わり、自信をもって活動に取り組む子の育成

豊田・若林東小・鈴木 義之

○友達とかかわることで自分を見つめ直し、主体的に行動できる子どもの育成

幸田・豊坂小・小野寺智史

○他者とかかわりながら学びを深める子どもの育成  
成 豊川・中部小・辻 拓也

○自信を持って、自己を表現できる子の育成  
田原・福江小・佐々木幸歩

## 《その他》

○挨拶の良さを実感し、自ら進んで挨拶をする子の育成  
豊田・前山小・福島 浩二

○自分の考えをもち、主体的に学び合う子の育成  
豊田・追分小・鈴木 毅司

○家庭と連携した正しい食事マナーを身に付け実践できる子の育成  
西尾・萩原小・伊藤 学

○豊かに語り合い、思考を高める児童の姿を求めて  
田原・神戸小・大岩 紫乃

○苦手な食材でも感謝の気持ちをもって食べられる子どもの育成  
北設・名倉小・原田 茜

○不登校児童生徒の自立を目指した支援の在り方と学校復帰に向けた取組の有効手段の探究  
岡崎・福岡中・成瀬 拓磨

○雑誌メディアから学び、主体的に情報を発信しようとする生徒の育成を目指して  
豊田・豊南中・青木 善樹

○広い視野をもち、論理的に物事を考える生徒の育成  
豊田・末野原中・近藤 勇太

○自分の食生活を自己管理できる生徒の育成  
北設・設楽中・山本 早紀

# 二年次

(五十名)

## 《国語》

○楽しく説明文を読み深める国語科の学習  
岡崎・矢作北小・深谷 昌弘

○友達とかかわり合い、互いに考えを深め、学び合う子の育成  
刈谷・小垣江小・岡田 潤

○叙述を基に、登場人物の心の動きを豊かに想像して読む児童の育成  
西尾・中畑小・嶋崎 春奈

○本文の叙述をもとに登場人物の気持ちを読み取り、音読に生かすことのできる子の育成  
西尾・矢田小・鈴木 里奈

○物語の良さを味わいながら読み、物語から学んだことを書く力につながる子を目指して  
みよし・天王小・佐藤 京子

○自ら学び、言葉の力を高め合う国語の授業  
幸田・豊坂小・加藤 友佳

○自分の思いをもち、相手に伝わる説明ができる児童をめざして  
新城・千郷小・安形 美樹

○音読を生かしながら、物語文を読み深める子ども育成  
北設・田口小・金田千賀子

○自己評価、相互評価を通して、正しく美しく書く力を身に付ける書写の授業  
岡崎・美川中・寄田 彩日

○かわり合いながら、考えを深める子の育成  
蒲郡・塩津中・牧原 玲名

## 《社会》

○仲間との関わり合いを通して、深い学びへ向かう子供の育成  
岡崎・六ツ美南部小・加藤 玲奈

○資料から歴史的事象を読み取り、自分なりの歴史観をもつことができる子の育成  
豊田・駒場小・浮穴 瑞木

○日本の未来を考えながら共生の必要性について気づくことができる子どもの育成  
豊橋・多米小・太田 篤行

○自ら追究し、学びを広げる蒲南つ子  
蒲郡・蒲郡南部小・石川 昂季

## 《算数・数学》

○主体的に筋道を立てて考えを深める授業  
岡崎・梅園小・井畑絵美梨

○算数的活動を通して、主体的に自分の思いや考えを表現できる児童の育成を目指して  
岡崎・葵中・岩野 慎也

○友達とかかわり合いながら、新たな見方に気づき、考えを深めようとする子の育成  
豊田・拳母小・寺澤ちひろ

○友達とかかわり合いながら自分の考えを伝え、深めることのできる子の育成  
豊田・前山小・中野 紗季

○友達と関わりながら、測定活動を行い、学び合いを深めることができる子をめざして  
西尾・花ノ木小・稲垣 千秋

○問題解決に向けて意欲的に追究し、自分の考えをよりよくしようとする生徒の育成  
知立・竜北中・金原 正季

○根拠を明らかにして相手に分かりやすく説明し、仲間と協同的に学び、高め合う生徒の育成  
幸田・幸田中・牧野 築

○自ら学ぶ生徒を育成する数学授業  
蒲郡・蒲郡中・岩本隆之介

《理科》  
○科学的な見方や考え方を身につけ、主体的に学びを深める子の育成  
岡崎・細川小・日下部教子

○自然現象に興味をもつて追究し、考えを深める子の育成  
北設・東栄小・桂川 慶佑

○既習の知識を活用して課題解決できる生徒の育成  
豊田・若園中・石川 和貴

○科学的事象をねばり強く追究する生徒の育成  
田原・福江中・箕輪 雄介

## 《音楽》

○様々な音色のよさや違いに気付く、音色や奏法を工夫して演奏をしようとする子の育成  
豊田・高嶺小・山口 彩佳

《図画工作》  
○自信をもって、自分の思いを豊かに表現する子の育成  
豊田・足助小・安藤千佳子

○自他の思いや願いを大切にしながら、仲間とともに探究し、自ら解決していく喜びを味わう子どもの育成  
西尾・一色西部小・下出 竜大

## 《体育・保健体育》

○運動の楽しさを味わい、自ら進んで運動に取り組む子の育成  
豊田・市木小・大須賀郭敏

○運動有能感・達成感を感じる体育学習の授業づくり  
安城・安城東部小・神谷 貴俊

○豊かなかわり合いを通して「できる」喜びを味わう体育学習  
蒲郡・蒲郡南部小・吉浜絵里子

○仲間と全力でぶつかり合い、共に成長する喜びを味わえる生徒の育成  
幸田・幸田中・池野恵理子

## 《外国語活動・外国語》

○楽しく文字に親しみ、主体的に英語表現しようとする子ども育成  
豊田・大畑小・後藤 千佳

○コミュニケーション活動で、相手を理解することを通して、学びを楽しむ生徒の育成  
安城・安城北中・清水久美子

○「話すこと」を通して、文法定着への意欲を高める授業のあり方  
安城・東山中・佐々木 歩

## 《生活》

○自ら追究し、仲間とともに学びを広げる生活科学習  
蒲郡・蒲郡南部小・小林 奈央

○人とかかわりを通して、自ら追究し続ける子の育成  
蒲郡・蒲郡南部小・杉本 芳依

## 《道徳》

○共に考え、議論する中で、よりよい生き方を求める子の育成  
豊田・前山小・大寺 佳祐

○仲間を大切に思い、生命を尊重できる子どもの育成  
西尾・横須賀小・椎野 十夢

○道徳的価値を理解し、よりよく生きる子の育成  
みよし・三吉小・中園 隼人

## 《学校保健》

○強くしなやかな心をもつ児童の育成  
安城・作野小・水越 雅大

○自分をみつめ、よりよい生活しようとする子ども育成をめざして  
北設・豊根小・村松 典子

○自他のいのちを大切にできる生徒の育成  
西尾・寺津中・山崎 彩乃

## 《特別支援教育》

○心を開放し、のびのびと楽しみながら、ライフスキルを獲得する児童の育成  
豊田・前山小・八木 淳子

○人との関わりを楽しみながら、主体的に活動する児童の育成  
安城・安城東部小・熊倉 三恵

## 《総合的な学習》

○主体的に活動し、思いを伝え合うことができる子どもの育成  
豊田・畝部小・伊藤 美幸

○ふるさとから学び、ふるさとのよさを語ることができる子どもの育成  
北設・津具小・木下 敦介

○主体的に探究し、グローバルな視野をもって、共に学びを深め合う生徒の育成  
岡崎・竜海中・武井 翔

## 《その他》

○「読みたい」「調べたい」という思いをもって読書をする子どもの育成  
豊田・岩倉小・伊藤 恵理



## 三年次

(十名)

### 〈国語〉

○話す・聞く力を育てる国語科の指導

新城・千郷小・鈴木有里子

### 〈数学〉

○協働的な学習を通して、自分の考えを表現し、考えを広げたり、深めたりすることができる生徒の育成

田原・田原中・川崎 啓太

### 〈理科〉

○互いの考えの良さを認め合い、協働的に学ぶ児童の育成

幸田・幸田小・新鶴田道也

### 〈図画工作〉

○一人一人のよさを認め合い、表現の喜びを味わう子の育成

安城・今池小・齋藤みゆき

### 〈技術・家庭〉

○公正で持続可能な社会の実現に向けて、積極的に社会に参画する生徒の育成

豊田・崇化館中・白神 園恵

### 〈保健体育〉

○一人一人の生徒が「できる」「わかる」を実感できる保健体育授業を目指して

豊田・藤岡南中・山東 篤史

### 〈外国語活動〉

○人との関わりを楽しみ、自分の気持ちを表現し、世界に目を向け「外国語がわかるようになる」という子への育成

豊田・前山小・小林 郁美

### 〈総合的な学習〉

○自ら考え、行動する子どもを育てる総合的な学習の時間

岡崎・矢作南小・兼子しずか

地域への思いを強くもち、自分たちのできることを見つけて動き出す生徒の育成

幸田・幸田中・天野 諒祐

## 「研究成果報告書」(平成二十七～二十九年度の研究成果 提出者の紹介

平成二十七年度を研究一年次として、平成二十九年度までの三年間、着実に研究を推進され、成果を見事に論文として提出された十名の先生方を紹介します。今後、最終審査会を経て、来年二月に優秀論文の表彰式を行う予定です。

岡崎・山中小

廣間三枝子



仲間と関わり合いながら、生き生きと学びを深める子供の育成／国語説明文の実践を通して

〔国語〕

刈谷・依佐美中

村井 琢



喜びを実感し、意欲的に学習に取り組む生徒の育成／第1学年「変化と対応」「平面図形」の授業実践

〔数学〕

豊田・小原中部小

尾崎 崇洋



主体的に行動できる子どもの育成／地域のひと・もの・こととの出会いを大切にする活動の実践(第4・6学年)を通して

〔総合的な学習〕

安城・安城南中

石本 敢大



「問い」をもち、筋道立てて考え、学びを深める子の育成を目指して

〔数学〕

西尾・平坂小

神谷 典子



ことばを根拠にした読みとりとかわり合いを通して、自分の考えを深め、豊かに表現していく子どもの育成／3年国語科「人物の気持ちを考えて読もう『サーカスのライオン』の実践を通して」

〔国語〕

西尾・東部中

岡本 麻美



仲間と共に楽しさを味わい、生き生きと表現する生徒の育成／中3音楽 ボディパーカッションを取り入れた音楽表現の工夫

〔音楽〕

幸田・南部中

山田 恵里



仲間とかわり合いながら学びを深め、自ら進んで生活をつくり出す生徒の育成／中2家庭科「衣生活・住生活の自立」の実践を通して

〔技術・家庭〕

豊橋・つつじが丘小

永田絵美夏



栄養のバランスを考えて、野菜を食べる(こと)のでき

る子の育成／試食したり実感したりして、楽しく学ぶ保健教育を通して

〔学校保健〕

豊橋・高豊中

杉山 貴哉



友達と学び合いながら、主体的によりよい英語表現を追究する生徒の育成／中学2年英語科「Cool Toyohashi」地域のよさを海外の人に伝えよう」の実践を通して

〔外国語〕

蒲郡・塩津小

小林健太郎



豊かなかわりを通して、「わかる」「できる」喜びを味わう子／4年「タグラグビー」6年「キャッチボール」表現運動の体育科の実践を通して

〔体育〕

### 平成三十年度 団体研究助成

本法人では、教育振興に寄与する教育研究団体の教育研究や運営等に助成を行っています。

今年度は、審査委員会において次の五団体にそれぞれ助成が決定されました。

- 三河小中学校長会
- 三河教育研究会
- 三河教頭会
- 愛知県へき地教育研究協議会
- 生活・障害児教育研究協議会

## 特色ある教育活動

―「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介―

### 八ッ面つ子の「第二の教室」

～八ッ面山で学び・心・命をつなぐ～

西尾市立八ッ面小学校 長谷川 崇幸

本校の東側には、八ッ面山があります。地元の歌や校歌に使われたり、市民が見やウォーキングを楽しんだりする愛される山です。本校の子どもたちは、毎日この山を見ながら、「第二の教室」として大切にしています。

山は、子どもたちの「学び」をつなぎます。四年生は、山の麓に生息するヒメタイコウチについて学びます。天然記念物を通して、自然環境について考えています。五年生は、山の木々について学びます。植樹をし、自分たちの山の今とこれからについて考えます。六年生は、「きらら鈴」づくりをします。今でこそ少なくなりましたが、八ッ面山では、雲母が採れます。きららと光るこの鉱物は、その見た目から「きらら」と呼ばれています。これで土鈴を装飾するのは、名人に教えを仰ぎ、作ることで、郷土の文化を継承しています。

また、山は、子どもたちの「心」をつなぎます。春、ベア学年で花見へ出かけます。一・六年生は、芝生広場で一緒にあって桜を見、遊びます。卒業式で一年生がベアのお兄さん・お姉さんのために一生懸命歌うのは、この活動があるからです。秋、地域の方や近隣の保育園などと一緒に山の清掃活動をします。この

「しあわせ運動」は、身近にある自然を大切にするとともに、地域の一員であるという自覚を高めています。

さらに、山は子どもたちの「命」をつないでいます。地震の避難訓練後には、五年生が隣にある保育園の園児の手をとり、山へ登ります。命を守るとともに、小学生でも被災時にできることをするという考えを育てます。

夏に学校へクワガタムシが飛んできたり、冬には冷たい風が吹き下ろしたりと、子どもたちは、八ッ面山の四季とともに生活しています。この「第二の教室」で、八ッ面つ子のはびのびと育っています。



## 行事予定(11月～2月)

- ・ 11月1日(木) 「教育と文化」 118号発行
- ・ 11月13日(火) 三河校長会郡市代表者文振説明会
- ・ 11月30日(金) 反省事項と次年度申し送り事項締め切り
- ・ 12月4日(火) 刊行物モニター研究調査報告締め切り
- ・ 12月7日(金) 2019年度版刊行物正誤調査依頼
- ・ 12月7日(金) 教育図書出版助成申請締め切り
- ・ 1月7日(月)～11日(金) かきぞめコンクール作品募集
- ・ 1月10日(木)～17日(木) 2019年度版刊行物第1期当初注文
- ・ 1月11日(金)～18日(金) みかわ彩発見絵画コンクール作品募集
- ・ 1月16日(水) 教育図書出版助成・優秀論文審査会
- ・ 2月2日(土) かきぞめ・みかわ彩発見絵画コンクール作品展(三河教育会館)
- ・ 2月3日(日) かきぞめ・みかわ彩発見絵画コンクール優秀作品表彰式
- ・ 2月8日(金) 編集委員長・関係部長会
- ・ 2月20日(水) 理事会・優秀論文表彰式
- ・ 2月28日(木) 郡市教育・研究、学校教育ボランティア助成等実績報告締め切り

## 編集後記

◇猛暑、地震、台風と、災害に対する備えについて身をもって考えさせられたこの夏でした。そんななか、ようやく一雨ごとに秋の深まりを感じる季節となりました。穏やかな年末を迎えられるよう祈るばかりです。

◇巻頭では、水藤副理事長から、「本気で語り、本気にさせる教師の姿勢が子どもたちの意志をつくり成果を生むのだ」と激励をいただきました。そして、竹下様から、子どもを目の前に悪戦苦闘している伸び盛りの若い先生方には、ご自身の体験をベースに、心に染みるレッスンの言葉を受けていただきました。

また、森様には、「牧野文齋」を取り上げ、信玄台地にこの人ありと、その業績に光を当てていただきました。

◇本号では、個人研究論文をはじめ、各種助成金を活用した活動について紹介しています。次年度もこの制度を活用し挑戦してください。個人、団体を待っています。本号に、原稿を寄せていただいた皆さんに感謝します。

◇みかわ彩発見絵画コンクールの春・夏の部には、1732点の応募がありました。結果についてはホームページにて公表しています。次号では、秋・冬の部の結果とあわせて本誌でも紹介する予定です。秋・冬の部の絵画、そして、かきぞめコンクールに、多くの応募のあることを期待しています。

(総務部)